

《株式会社エフエム東京 第406放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成26年3月4日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内0名)

◇出席委員(4名)

横森美奈子 委員長 渡辺貞夫 委員
内館牧子 委員 西田善太 委員

◇欠席委員(2名)

香山リカ 委員 秋元康 委員

◇社側出席者(10名)

富木田 代表取締役会長
千代 代表取締役社長
唐島 専務取締役
石井 常務取締役
平 常務取締役 営業局長
山科 常勤監査役
村上 執行役員 編成制作局長
延江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮野 編成制作局 編成制作部長
岩城 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(1名)

藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約25分)

KIRIN BEER “Good Luck” LIVE (放送200回目)
2月1日(土) 16:00~16:55 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■ソチ五輪 Cheer Up Station / Cheer Up Songs を展開

2月7日～23日に開催されたソチ冬季オリンピックに関しまして、TOKYO FMは「Cheer Up Station」「Cheer Up Songs」という二つの企画を実施しました。

「Cheer Up Station」は、五輪開催100日前の昨年10月30日(水)から、開幕翌日の2月24日(月)まで、月～木曜のワイド番組「シンクロのシティ」(15:00～17:00)で、連日冬季五輪の種目や出場を目指す選手、出場を決めた選手たちのプロフィール、試合の見所をご紹介してきました。

ソチには当社報道情報センターアナウンサー柴田幸子を現地派遣し、会期中、毎日のニュース枠や特別報道枠で、現地レポートを届けました。

「Cheer Up Songs」では、アスリートにとっての音楽に着目し、五輪出場選手たちが日頃パワーの源にしている楽曲を会期前から取材、大会中の選手の活躍とともに生放送やニュース速報時にその音楽を選曲し彼らの奮闘に彩りを添えました。

この企画は、スポーツ紙「東京中日スポーツ」において会期中、柴田幸子がソチから10回にわたり寄稿を行う連載企画となりました。

■映画「永遠の0」大ヒット

百田尚樹の原作、累計300万部以上の超ベストセラーを映画化した同作品には当社も出資参画しておりますが、昨年12月21日の公開以来、3月2日現在、観客動員660万人、興行収入80億円を突破し、本年度正月映画NO.1の記録的ヒットとなり、週末興行ランキングは8週連続1位を達成するなど映画エンタテインメント界発の社会現象を起こしています。

2013年度実写作品でも興行収入で第1位、アニメもあわせた全作品でも「風立ちぬ」について2位となる成績を収めています。

今後も文化的価値の高い、良質で時流をとらえた作品には、積極的に連携し当社のプレゼンスを向上させてまいります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見 / 「■」社側説明)

○映画の参画はどれくらいの出資か？

■2%の出資で、収益の2%が返ってくる出資形態だ。

<第 406 回放送番組審議会 議事録>

○出資映画はどうやってジャッジしているのか？

■エンタテインメント事業部に映画の担当者がおり、作品の候補をピックアップして、社内の投資委員会にかけて、了承されたら決まる仕組み。出資作品に対しては、番組に連動して作品の紹介をしたり、スポット広告を出す。その料金は TOKYO FM でのプロモーションとして自社で負担してやっている。

議題2: 番組試聴 (約 25 分)

【番組名】 KIRIN BEER “Good Luck” LIVE (放送 200 回目)

パーソナリティ: 齋藤美絵

ゲスト: 一青窈

【放送日時】 2月1日(土) 16:00~16:55 放送

【番組概要】

音楽はLIVEに限る!

FMファン、音楽ファンたちの期待に応え、2010年4月にスタートした「KIRIN BEER “Good Luck” LIVE」が放送200回を迎えました。

この番組は、「いい音楽と笑顔に乾杯!」をコンセプトに『アットホームで贅沢な空間』をリスナーに感じてもらう、当社7Fスタジオイリスを本拠地にした唯一無二のラジオLIVE番組です。

週替わりで登場するJ-POP界の多彩なアーティストたちによる“歌い継がれる名曲”を原則として生放送でお届けしています。全ラインナップは資料をご参照願います。

去る2014年2月1日の放送200回記念には一青窈さんを迎えました。

「もらい泣き」「ハナミズキ」などの代表曲を多く持ち、独特の歌声と繊細な歌詞で多くの人に感動を与え続ける一青窈さんによる、この番組のためのスペシャルLIVEを試聴いただきます。

また、この放送回は3/1発売の「雑誌 BRUTUS」～なにしろラジオ好きなもので②、でも取材していただき、オンエアだけでは分からない「スタジオの雰囲気」「ライブの様子」なども紹介していただきました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○こんなハッピーな番組を運営するのは大変だと想像する。生放送でライブをやっているのは信じられないような話だ。記事が掲載されたBRUTUSのページを見ると狭いところでとても少人数でやっているのがわかる。スポンサーとうまくリンクしていて、ライブの打ち上げもリスナーが参加できるという面白い番組だと思う。

○スタジオでライブの演奏という企画は良いと思うが、J-POPにこだわっているのは、面白くない。結構陳腐なものが多い。個人でもグループでも、いい音楽をやっている人はたくさんいるので、カテゴリをJ-POPにこだわらないで、もっと視野を広くしていいアーティストを選んでくれたらいいと思う。

■「歌い継がれてきている名曲」というのをコンセプトにしているため、どうしてもボーカルものになるが、アーティスト本人のレパートリーだけでなく、カバーも含めて名曲を演奏していただき、この番組ならではの歌い継がれるスタンダードソングというのが番組の底流に流れるコンセプトになっている。

○これまでの出演アーティストの一覧表を見て、毎回すごいラインナップなので驚いた。ファンにとっては、この近さで少人数で生演奏が聴けるというのは至福のひとつだろうと思う。番組の鍵はライブ会場の恵まれた状況がときめきがどう伝わるかということだと思う。拍手の感じでも大きな会場ではないのがわかるし、アーティストと客席とのやりとりなどを通じて、すごいところで聴いているんだなということもわかるが、それをどう伝えていくかということにおいて、もう少し工夫の余地があるのではないか。齋藤さんは出すぎず引きすぎず、アーティストを生かす語りで、番組とよく合っていた。気になったのは、コマーシャルが騒々しい点。せっかくキリンというおしゃれで大人のいい会社がスポンサーになってくれているのだから、あのライブの雰囲気や壊す騒々しい CM を流すことはないと思う。例えば総立ち系の音楽のときと、今回のように涙するような音楽のときと、コマーシャルのトーンを変えてもいいのではないか。BRUTUS の記事で、一青さんがコメントしている「テレビだとどう映っているか気になるけれど、ラジオはリラックスできておしゃべりできる」というのが今後もこの番組の大事なコンセプトだろう。

○局でライブをやってそのまま生放送なんて、素晴らしく贅沢な番組だ。バンドも少ない編成で、すごくプライベートな感じのする普段聴けない音をリアルに聴けるというのは本当に素晴らしい。一青さんの歌にも聴き惚れていたところで、あのコマーシャルが入ったのでその点は興醒めだった。他の FM 局もよく聴くが、ジングルの演出によって時間ごとに出演者や番組が変わっても統一感があって、CM の異物感を感じることは少ない。その点、TOKYO FM の場合はもっとテレビ的で、良い意味で雑然としていてメリハリがあるのは良いが、こういう番組だとこのコマーシャルは損だ。せっかく音楽に浸っていたのに、雰囲気が壊れてもったいなかった。番組本編と CM の統一感を出すことは、今後の提案としてありなのではないかと思った。

○CM は確かに一青さんの歌とはトーンが違ったが、これはこれで良い CM だった。キリンの「夢のドリーム」というキャンペーンは一般の人の普通ありえない夢を叶える企画で非常に話題にもなったものだ。広告主からしたら、CM が目立って良かった、という見方もあるかもしれない。あの流れだから CM も聴かれるという意味では良かったかもしれない。きちんとスポンサーがついている番組は大事だ。

また、齋藤さんは出だしの進行はとても上手だったが、質問が陳腐だった。

■一青さんはユーミンのカバーの「ひこうき雲」で歌詞を少し間違えたと後から言っていたが、動揺を一切感じさせない堂々とした歌いぶりだった。お客さんも皆さん涙しな

がら聴いていた。番組運営ではキャスティングで一番苦労している。

○生というハードルにこだわっている理由は？

■昔あったライブ番組の感動をもう一度届けたいと思い、立ち上げた。番組開始当初は、こういう企画はもう成立しないと言われていたが、それだからこそそのハードルを越えてやってみたいと思った。

回を重ねるごとに、アーティストの間に、あの人もこの人も出ている・・・という情報が回り、連鎖的に出演してもらえる流れもできてきた。最初の頃は出演に躊躇するアーティストが多く、ベテランで手だれの演奏ができる人たちが並んでいたが、だんだんいろいろな人が出てくれるようになった。2回以上出てくれているアーティストもいる。

○演奏する方もホールだと改まってしまうが、スタジオの気軽さが良い。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
3月29日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、4月8日(火)に開催することを決めた。

以上